

全国水平社創立大会（宣言・綱領・決議）

宣 言

全國に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を冒瀆されている罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勦るかの如き運動は、かえつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、実行者であつた。随劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らなしい嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間を神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荆冠を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によつて、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んかに冷たいか、人間を勦る事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月三日 全国水平社創立大会

綱 領

一、吾々特殊部落民は部落民自身の行動によつて絶対の解放を期す
一、吾々特殊部落民は絶対に經濟の自由と職業の自由を社会に要求し以て獲得を期す

決 議

一、吾々に對し機多及び特殊部落民等の言行によつて侮辱の意志を表示したる時は徹底的糾弾を爲す。
一、全国水平社本部に於て吾等團結の統一を圍る爲め月間雜誌「水平」を發行す。
一、部落民の絶対多数を門信徒とする東西両本願寺が此際吾々の運動に對して抱藏する赤裸々なる意見を聴取し其の回答により機宜の行動をとること。

右決議す

大正十一年三月三日

全国水平社創立大会